

正解－（２）（正答率 75.7%）

- （１）適切である（宅地防災マニュアルの解説 p.163）。
- （２）不適切である。盛土材料が粒径幅の広い砂質土であっても、地下水位が高く締固めが不十分な場合は、液化化することがあり注意が必要である（宅地防災マニュアルの解説 p.159）。なお、盛土地は液化化の可能性が高い地形に該当し、また盛土下部地盤の土質にも影響するので、盛土材だけで地表面に及ぼす程度は判断できない。
- （３）適切である。宅地地盤の造成盛土における締固め度は管理手法や地表からの深度によって定められており、いずれの場合も 85～90%以上で規定されている（宅地防災マニュアルの解説 p.176）。
- （４）適切である（宅地防災マニュアルの解説 p.164）。

●擁壁（１問）

1 1. 次は、擁壁に関する記述である。不適切なもの一つを選び、記号（１）～（４）で示せ。

- （１）既存擁壁に建物荷重が加わらないようにするため、基礎底面を安息角以深に設けて計画する。
- （２）L型擁壁前面の土による受働土圧は、滑動抵抗力として安定検討上考慮しない。
- （３）伸縮継目は、擁壁の延長 20m 以内ごとに 1 箇所設ける。特に地盤条件の変化する箇所などには、有効な伸縮継目とするため基礎部分まで切断する。
- （４）擁壁の安定性について検討する際の常時の安全率 F_s は、支持力、滑動、転倒のそれぞれの検討に対して、 $F_s=3.0$ を用いる。

正解－（４）（正答率 29.7%） ※解説を訂正（2024/7/16）

- （１）適切である。安息角以深に基礎底面を設けることで、擁壁に建物荷重を作用させないようにする（小規模指針 p.201）。
- （２）適切である。基礎工事の掘削等により、この部分の土が乱される場合が多いことや、洗掘等の影響により長期にわたる確実性が期待できないため、通常は安定検討上考慮しない（宅地防災マニュアル p.325）。
- （３）適切である。地盤条件の変化する箇所、擁壁高さが著しく異なる箇所、擁壁の材料・構法を異にする箇所は、有効に伸縮継目を設け、基礎部分まで切断する（宅地防災マニュアル p.370）。
- （４）不適切である。支持力については安全率 $F_s=3.0$ だが、転倒・滑動については $F_s=1.5$ を用いる（宅地防災マニュアル p. 321）。